

## 2 研究の実際

### (5) 考察—校内研究の推進・充実のための方策の有効性について—

本研究では、平成25年度に県内の公立小・中学校を対象とした校内研究に関する実態調査を実施し、その結果を基に校内研究の推進・充実のための方策を作成し提案しました。

平成26年度に県内4校（小学校2校、中学校1校、小中一貫校1校）の研究推進協力校において、提案に基づいた実践を行いました。そして、研究推進協力校における教師（4校合計70名）を対象にした校内研究に関する2回の意識調査結果を基に、実践した方策の有効性について考察しました。

#### 考察の視点

・各学校の教師が校内研究の取組を共通理解し、日々の教育実践に生かすために、協議の場を活性化させる手立てとしてワークショップ型を取り入れた研究会を実施しました。この手立ての有効性について、以下のア、イ、ウの3点を視点に考察します。

ア 研究会における協議の場が活性化されたか

イ 校内研究の取組の共通理解がなされたか

ウ 校内研究の取組を日々の教育実践につなげようとする意欲や具体的な手立てが見られたか

#### ア 「研究会における協議の場が活性化されたか」について

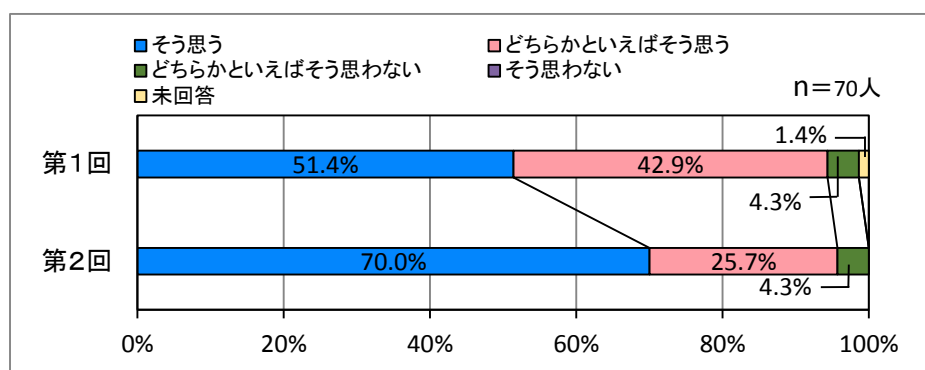
研究会における協議の場が活性化されたかどうかについては、第1回意識調査と第2回意識調査における以下の項目の回答状況で判断しました。

I-2-②協議の場は自由に意見が言える雰囲気だと感じますか

I-2-③協議の場で思いや考えを自主的に述べていますか

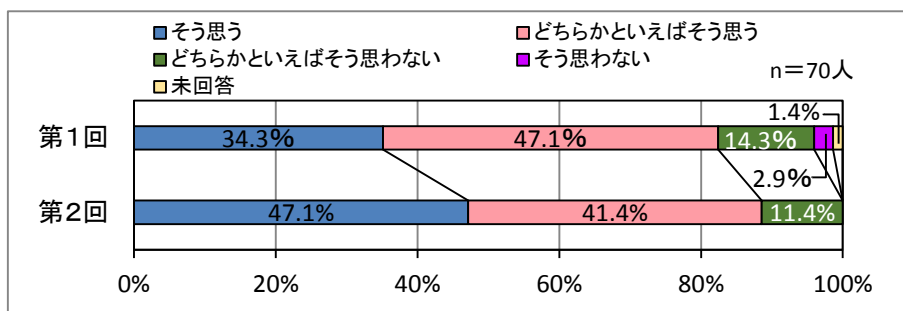
I-4-①ワークショップ型の研究会は協議を活発にすることに役立ちましたか（第2回意識調査のみ）

#### I-2-②「協議の場は自由に意見が言える雰囲気だと感じますか」の回答の割合



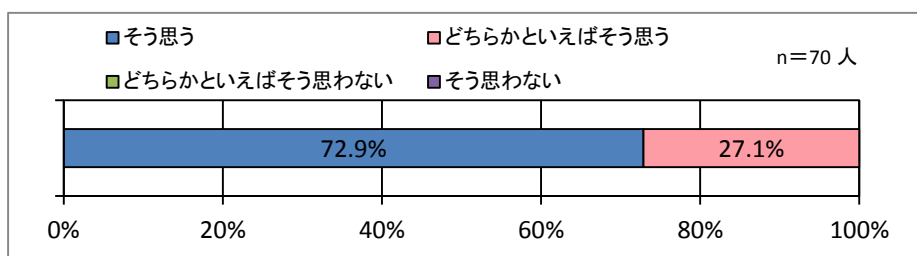
「協議の場は自由に意見が言える雰囲気だと感じますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回94.3%、第2回95.7%となり、肯定的な回答が1.4ポイント増加しました。さらに、第2回では「そう思う」と回答した割合が18.6ポイント増加しました。

### I-2-③「協議の場で思いや考えを自主的に述べていますか」の回答の割合



「協議の場で思いや考えを自主的に述べていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 81.4%、第2回 88.5%となり、肯定的な回答が7.1ポイント増加しました。さらに、第2回では、「そう思う」と回答した割合が12.8ポイント増加しました。

### I-4-①「ワークショップ型の研究会は協議を活発にすることに役立ちましたか」の回答の割合



「ワークショップ型の研究会は協議を活発にすることに役立ちましたか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と教師全員が回答しました。

ワークショップ型の研究会については、以下のような意見がありました。

#### （全員が参加できる）

- ・全員が研修に参加でき、意識も高まりよい方法だと思う。
- ・みんなが考えを出せる。

#### （意見が出しやすくなる）

- ・自由に意見が出せるのがいい。
- ・少人数なので話しやすい雰囲気になるところがよい。
- ・意見が言いやすく、細かいところまで話合いができる。
- ・意見を出す機会が多く、いろいろな話をしたり、聞いたりできるところがよいと思う。

#### （多くの意見を聞くことができる）

- ・多様なすばらしい意見を聞くことができ、勉強になります。
- ・一部の方の意見ではなく、多くの方の意見が聞くことができ楽しい。

#### （協議を深めることができる）

- ・付箋を基に、小グループでよかったことや課題となること等、はっきりと分けて話し合うことができる。
- ・1つの意見から深まりのある研究の場になっていると思う。

#### （活発な論議ができる）

- ・今年度初めての体験であったが、活発に論議ができたと思う。

記述を見ると、全員が発言することを目的とした少人数のグループによる協議を取り入れたことで、教師は、「全員が参加できる」「意見が出しやすい」という実感をもったと考えます。そして、全員が意見を出し合うことで「多くの意見を聞くこと」となり、「協議を深め」たり「活発な論議」をしたりすることにつながったと考えます。

以上の結果から、ワークショップ型の研究会を実施したことにより、協議の場が活性化されたと考えます。

## イ 「校内研究の取組の共通理解がなされたか」について

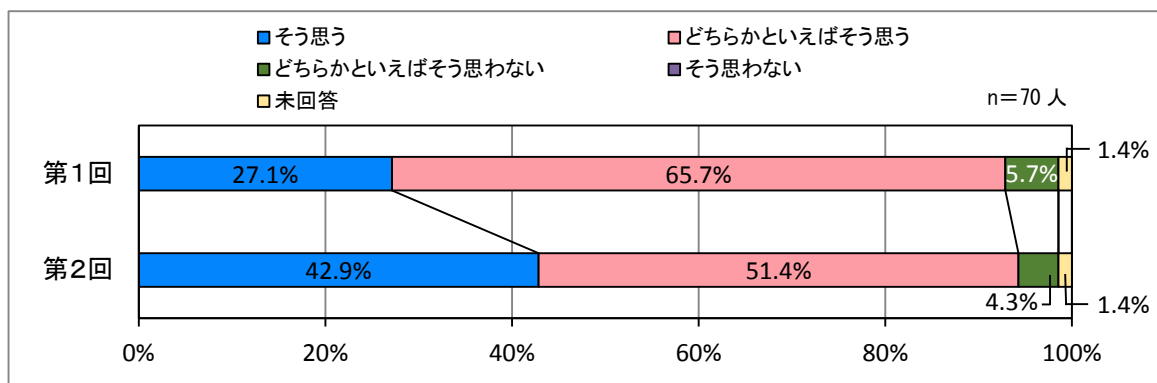
校内研究の取組の共通理解がなされたかどうかについては、第1回意識調査と第2回意識調査における、以下の項目の回答状況で判断しました。

I-1-②学校の課題を把握して、校内研究に取り組んでいますか

I-2-⑤協議の場では成果や課題など協議した内容の共通理解が図られていますか

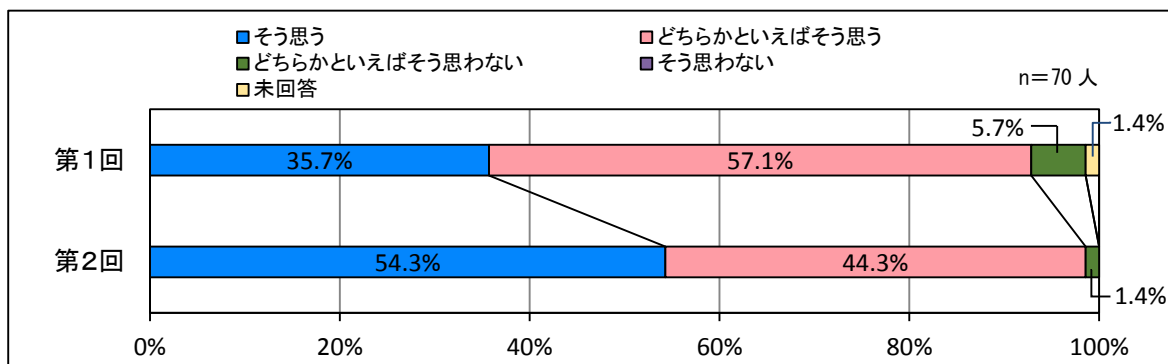
II-1-①学校の課題を把握して研究に生かすことについて、どのくらい達成できていると思いますか

### I-1-②「学校の課題を把握して、校内研究に取り組んでいますか」の回答の割合



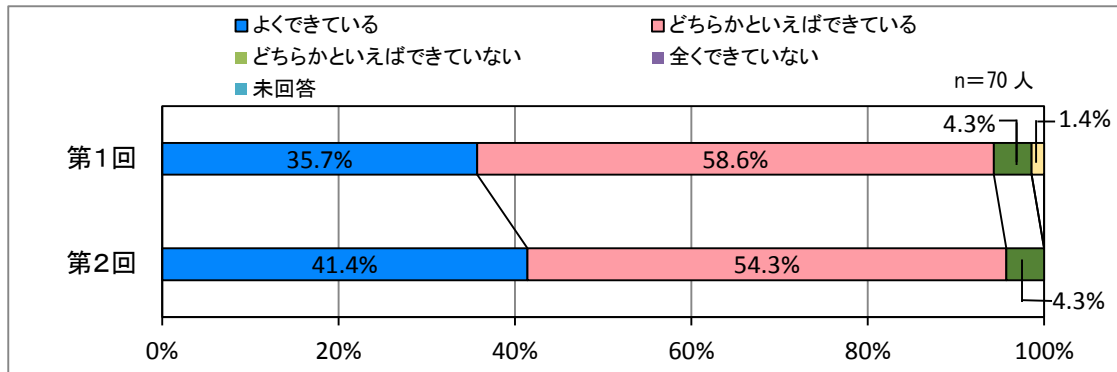
「学校の課題を把握して、校内研究に取り組んでいますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 92.8%、第2回 94.3%となり、肯定的な回答が1.5ポイント増加しました。さらに、第2回では、「そう思う」と回答した割合が15.8ポイント増加しました。

### I-2-⑤「成果や課題など協議した内容の共通理解が図られていますか」の回答の割合



「成果や課題など協議した内容の共通理解が図られていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 92.8%、第2回 98.6%となり、肯定的な回答が5.8ポイント増加しました。さらに、第2回では、「そう思う」と回答した割合が18.6ポイント増加しました。

Ⅱ-1-①「学校の課題を把握して研究に生かすことについて、どのくらい達成できていると思いますか」の回答の割合



「学校の課題を把握して研究に生かすことについて、どのくらい達成できていると思いますか」において、「よくできている」「どちらかといえばできている」と回答した教師の割合は、第1回94.3%、第2回95.7%となり、肯定的な回答が1.4ポイント増加しました。さらに、第2回では、「よくできている」と回答した割合が5.7ポイント増加しました。

校内研究についての記述を見てみると、以下のような意見がありました。

- ・自分が疑問に思ったことをグループで協議していただけるので、大変ありがたいです。
- ・グループ協議の後に全体会があったことで、共通理解が図られ、意味のある研究会になった。

協議内容の焦点化を図るために各学校の研究主題に基づいた視点を設定しました。授業の視点を共通理解した上で研究授業を参観することで、児童生徒の変容や指導方法に関する成果と課題について視点に沿って疑問や意見を出し合うことができましたと考えます。

また、各学校の研究会の目的に応じたワークショップ型の選定を行いました。授業研究会を行う前に研究会の目的や進め方について事前に説明しました。研究主任を対象にした研修会では、ワークショップ型の研究会について「意見はたくさん出るが、出したままで終わる」といった声が聞かれます。しかし、事前の手立てを取ることで、「共通理解が図られ、意味のある研究会」にすることができると思います。

以上の結果から、ワークショップ型の研究会を実施したことにより、校内研究の取組の共通理解がなされたと考えます。

**ウ 「校内研究の取組を日々の教育実践につなげようとする意欲や具体的な手立てが見られたか」について**

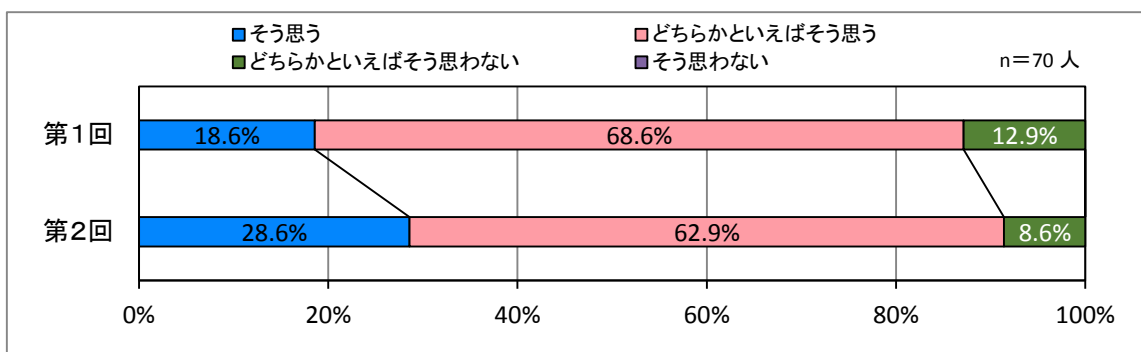
「校内研究の取組を日々の教育実践につなげようとする意欲や具体的な手立てが見られたか」については、第1回意識調査と第2回意識調査における、以下の項目の回答状況で判断しました。

I-1-③日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか

I-2-⑥協議した内容のうち、日々の教育実践に生かせるものがありますか

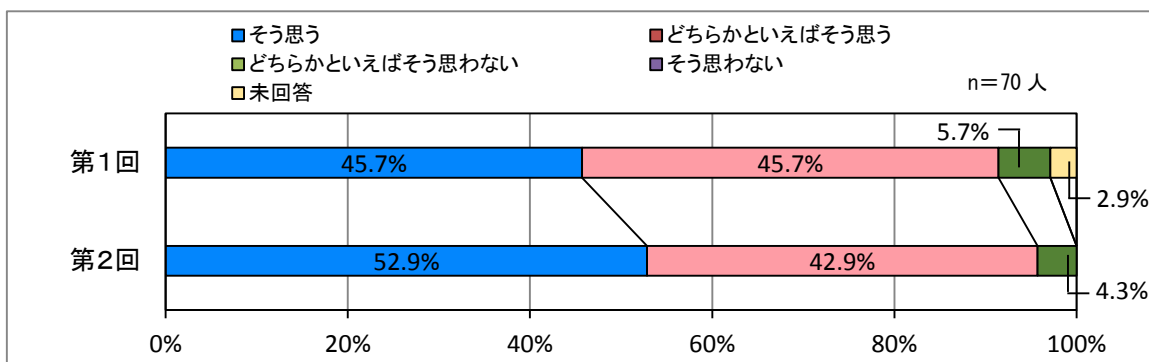
I-4-②ワークショップ型の研究会は、協議した内容を日々の教育実践に生かすことに役立ちましたか(第2回意識調査のみ)

**I-1-③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」の回答の割合**



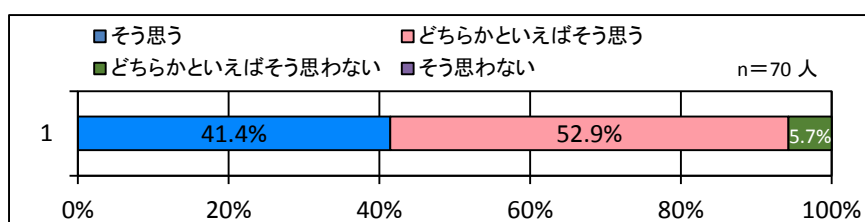
「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回87.2%、第2回91.5%となり、肯定的な回答が4.3ポイント増加しました。さらに、第2回では、「そう思う」と回答した割合が10.0ポイント増加しました。

**I-2-⑥「協議した内容のうち、日々の教育実践に生かせるものがありますか」の回答の割合**



「協議した内容のうち、日々の教育実践に生かせるものがありますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回91.4%、第2回95.8%となり、肯定的な回答が4.4ポイント増加しました。さらに、第2回では、「そう思う」と回答した割合が7.2ポイント増加しました。

I-4-②「ワークショップ型の研究会は、協議した内容を日々の教育実践に生かすことに役立ちましたか」の回答の割合



「ワークショップ型の研究会は、協議した内容を日々の教育実践に生かしたりすることに役立ちましたか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は94.3%となりました。

協議した内容と日々の教育実践との関わりについての記述には、以下のような意見がありました。

**（協議した内容を日々の教育実践に生かすことに効果があったこと）**

- ・実践記録表を記入することで、自分の意欲の向上につながったと思う。

**（協議した内容を日々の教育実践に生かすために考えたこと）**

- ・折に触れて、校内研究で出た話を確認する。
- ・毎回の協議で課題になったことを具体的な取組として設定し、みんなでやっていけるようなことをつくる。
- ・学びを各自がノートに残したり、気付きを全員で通信等によって共有したりすると、もっとよい気がします。
- ・学年でチェックし合う。
- ・学年でいつも共通理解をして進めていく。
- ・校内研究を終えてから自分にフィードバックさせてめあてを考え、実践しチェックする。
- ・日頃の教室での指導の姿やポイントを交流したい。
- ・学年で共通理解し、共同で取り組んでいく。
- ・日頃から授業内容を公開する。
- ・実践したいことを文字にする。
- ・自分で目標などを立て、時々点検・振り返り等をする。
- ・日頃から手立てを話し合う。

研究会を実施する際に、年間を通した校内研究におけるP D C Aの位置付けと、Dの段階における実践と改善を繰り返すこと(p d c a)を各校の教師全員で共通理解しました。また、協議したことを基に、5W1Hで日々の教育実践に生かすための計画を立てるなどの手立てを取りました。このような手立てを取ることが、「実践記録表を記入することで自分の意欲の向上につながった」といった意見や、協議した内容を日々の教育実践に生かすための様々なアイデアに結び付いたと考えます。これは、研究会における協議がその場で完結することなく、教師の指導法改善などへの意欲につながっている成果だと考えます。

これらのことから、教師は協議で出された内容を基に具体的な手立てを考え、日々の教育実践に生かそうとしていると考えます。

以上の結果から、ワークショップ型の研究会を実施したことにより、校内研究の取組を日々の教育実践につなげようとする教師の意欲や具体的な手立てが見られたと考えます。

ア、イ、ウの各項目における考察より、ワークショップ型の研究会は教師が校内研究の取組を共通理解し、各学校における研究の成果を日々の教育実践に生かそうとするための手立てとして有効だったと考えます。